

遠距離恋愛カップルのコミュニケーション行動に関する考察*

Communication of long-distance couples*

丹羽由佳理*・大森宣暁**

By Yukari Niwa*・Nobuaki Ohmori**

1. はじめに

情報通信技術の発展と普及により、携帯電話やインターネットなどのITの利用が交通主体の活動スケジュールに影響を与えており¹⁾²⁾、人々のコミュニケーション行動は、近年大きな変化を遂げている。電子メールは多様で大量の情報伝達を可能にし、携帯電話は時空間の制約を受けずリアルタイムのコミュニケーションを可能にしている。このことは、情報収集の時空間制約の緩和とコミュニケーションのアクセシビリティの増加を意味し、今後交通の動的意思決定がますます活発になることが予想され、動的な交通需要予測の必要性が高まると考えられる。このような通信環境の急速な変化による人々のライフスタイルの変化を把握することは、IT時代における都市のあり方を再検討する上で重要な要素であるものと考えられる。また、これまで通信と交通の代替・補完関係に着目した研究は数多く行われているが、特定の人間関係に限定した個人間のコミュニケーションを詳細に分析した研究は少ない。

既存の調査結果⁴⁾⁵⁾から遠距離恋愛カップルの通信行動について整理する(表1)。遠距離恋愛カップルにおける通信手段は、携帯電話が電話(固定電話)の2倍であり、それ以外の手段(手紙、FAX)などは極めて少ない。また、7割のカップルがほぼ毎日交際相手と通信している。会う頻度としては、「月に一回程度」と「3ヶ月に一度程度」で全体の半数を占めている。通信技術が発達した現在では昔と比べてコミュニケーション手段が豊富にあることから、

通信技術が発達する前に比べ、遠距離恋愛がうまくいくようになったのではないかと仮定できる。

表1. 現代にみる遠距離恋愛の通信手段・会う頻度・連絡頻度

通信手段	会う頻度	連絡頻度
電話	20.60%	ほとんど会わない 13.80%
携帯電話	49.90%	毎日必ず 42.90%
E-mail	22.60%	数年に1回程度 0.90%
チャット	3.10%	ほぼ毎日 27.80%
ICQ	2%	月に1回程度 17.10%
手紙	1.40%	半年に1回程度 6.60%
FAX	0.10%	3ヶ月に1回程度 20.30%
その他	1%	月に1回程度 3.10%
		半年に1回程度 0.90%
		ほとんどしない 1.20%
		その他(総回答数1000)

本研究では、特に遠距離恋愛カップルのコミュニケーション行動に着目し、詳細な通信・活動についての生活行動調査を行い、生活行動における通信の位置づけ・役割について分析する。

2. 調査概要

調査は2002年6月22(日)~26日(水)にかけて行った。調査対象者は、表2に示すようにそれぞれ異なる都市で生活する2組の遠距離恋愛カップルである。詳細な通信・活動履歴を分析するという研究内容を正確に被験者へ伝えた上で調査を行った。

表2. 調査対象者の属性

	彼氏		彼女	
カップルA	名古屋	大学院生	横浜	大学院生
カップルB	名古屋	社会人	東京	大学院生

対象期間5日間の全ての情報通信利用について、利用時刻、通信手段(電話、携帯電話、携帯メール、iモード、E-mail、Web)、通信相手(交際相手、親、友人、教授、知人、その他)、受信・発信、内容、移動中かそうでないか、を被験者全員に記録してもらった。

対象期間5日間の自分の活動内容、開始・終了時刻、活動場所および移動を時間軸に沿って記録してもらった。同時に通信(電話、携帯電話、携帯メール、iモード、E-mail、Webのうちいずれか)により得られた情報と、日頃の認識から、交際相手の活動ダイアリー

keywords : 遠距離恋愛カップル, 生活行動調査, 通信

*学正員, 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻
〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部都市工学科
Tel: 03-5841-8391, E-mail: yukaring@muf.biglobe.ne.jp

**正員, 工博, 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部都市工学科
Tel: 03-5841-6232, E-mail: nobuaki@ut.t.u-tokyo.ac.jp

(活動内容、開始・終了時刻、活動場所)を予想して記録してもらった。

PHS位置情報システムの機能を有する小型端末PE AMONを携帯し、5分間隔で行動軌跡データを収集した。

表3. 調査概要

調査項目	内容
1.情報通信ダイアリー	利用時刻,通信手段(電話,携帯電話,携帯メール,iE-mail,Web),通信相手(交際相手,親,友人,教授,知人,その他),受発信,内容,移動
2.活動ダイアリー	活動内容,開始終了時刻,活動場所,移動 交際相手の活動内容,開始・終了時刻,活動場所
3.PHSデータ	5分間隔で取得する位置情報システム

3. 通信利用の分析

(1) 通信利用回数

表4-6では、5日間合計の通信相手別回数,通信手段別回数を示す。彼氏は、主に携帯電話と携帯メールを利用しており、彼女はE-mailなども頻繁に利用している。カップルA,B共に、ほぼ毎日携帯電話もしくは携帯メールで連絡をとりあっている。

表4. 通信相手別(回数)

通信相手別	A 彼氏	A 彼女	B 彼氏	B 彼女
交際相手	3	6	14	16
友人	12	7	3	39
仕事・大学	0	16	0	64
事務	0	4	0	4
その他	0	3	0	7

表5. 通信手段別(回数)

通信手段別	A 彼氏	A 彼女	B 彼氏	B 彼女
電話	0	0	0	1
携帯電話	交際相手 受信	2	4	7
	交際相手 発信	4	2	4
	それ以外	11	1	0
携帯メール	交際相手 受信	1	2	7
	交際相手 発信	2	1	12
	それ以外	2	13	3
E-mail	0	17	0	61
WEB	0	5	0	0

(2) 一日の全通信における交際相手との通信率

交際相手との通信率(=交際相手との通信回数/一日の全通信回数)について5日間を通して考察すると、彼氏と彼女では通信率に差があることが分かる(図1)。カップルA,B共に彼氏は彼女以外にあまり通信していないため、彼氏における彼女との通信割合は高い。これに比べ、彼女は彼氏以外に友人や先輩、

知り合いとも頻繁に通信していることから、彼女にとっての彼氏との通信割合は低い。従来の調査では、通信相手や通信手段を分析することは可能でも特定の個人間に注目して互いの通信割合を比較することは困難であった。このように分析することで、通信率を両者から考察することができる。

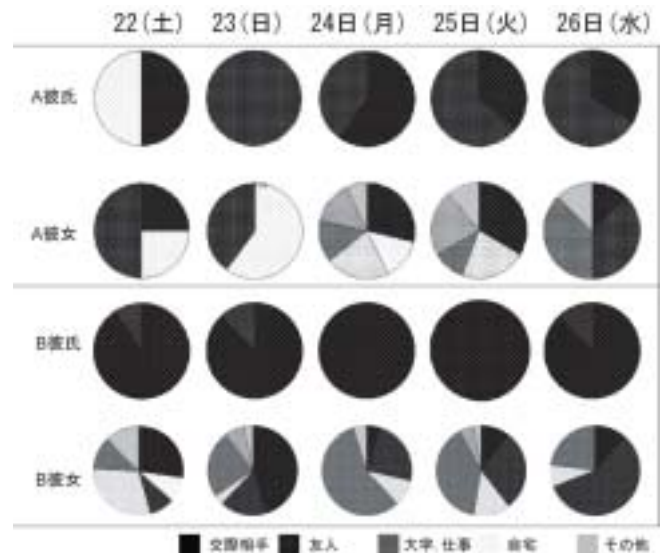
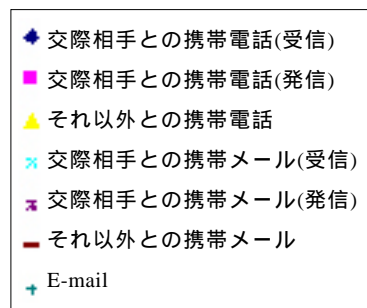


図1. 一日の全通信回数のうち交際相手との通信率

(3) 交際相手とそれ以外の通信相手との比較

図2-3に示す全情報通信履歴では、利用時刻,通信手段(携帯電話,携帯メール,E-mail,Web),携帯電話と携帯メールについては通信相手(交際相手-受発信,それ以外)を示す。

カップル A の場合、通信時刻に関して規則性は見られないが、カップル B の場合、土日(22-23)以外の平日では、それ以外の通信相手と比較して交際相手との携帯電話による通信時刻は夜(21:00-24:00)に通信時間が固定されている。



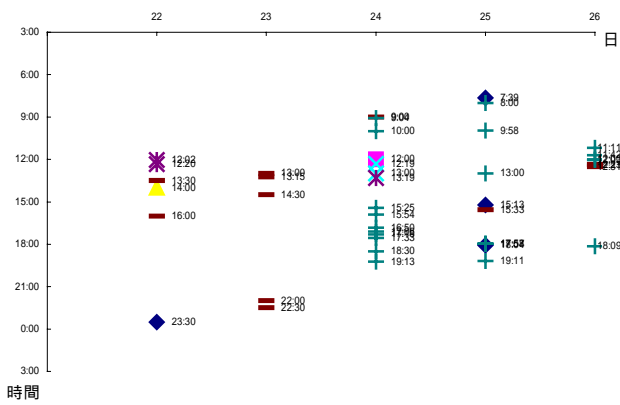
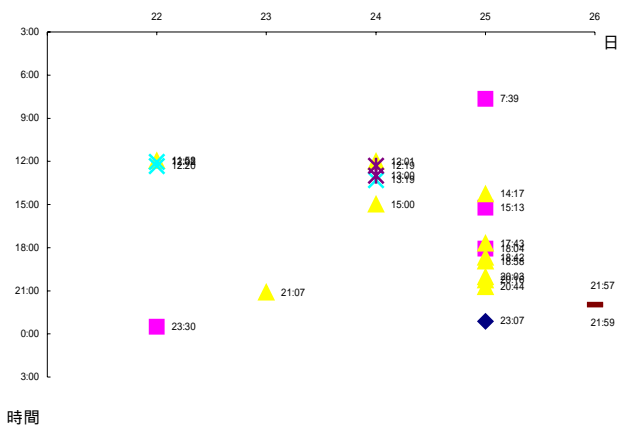


図 2. カップル A(上: 彼氏, 下: 彼女)の全通信時刻分布

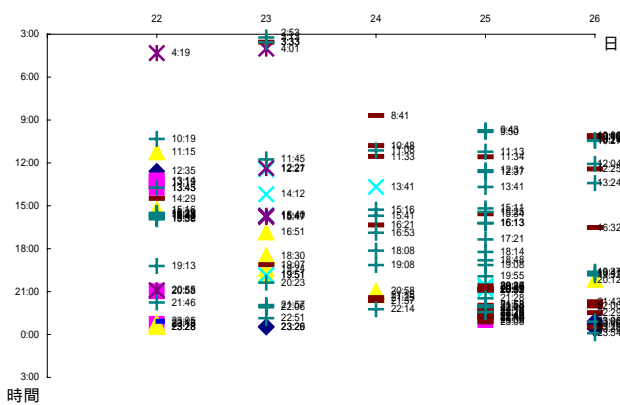
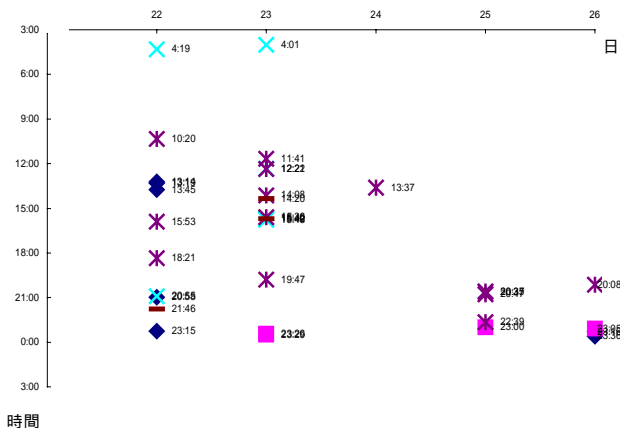


図 3. カップル B(上: 彼氏, 下: 彼女)の全通信時刻分布

4. 活動予測の分析

(1) 活動ダイアリー

図4に示す活動ダイアリーはカップルA彼氏(6月25日)のデータである。 実際の活動(自宅,移動,外出), 交際相手が予想した活動(時刻), 交際相手が予想した活動(時刻)が実際の活動と一致した時間帯, 交際相手が予想不可能として「不明」と記した時間帯を示す。

実際の活動	交際相手が予想した活動	交際相手が予想した活動が実際の活動と一致した時間帯	交際相手が予想不可能として「不明」と記した時間帯
-------	-------------	---------------------------	--------------------------

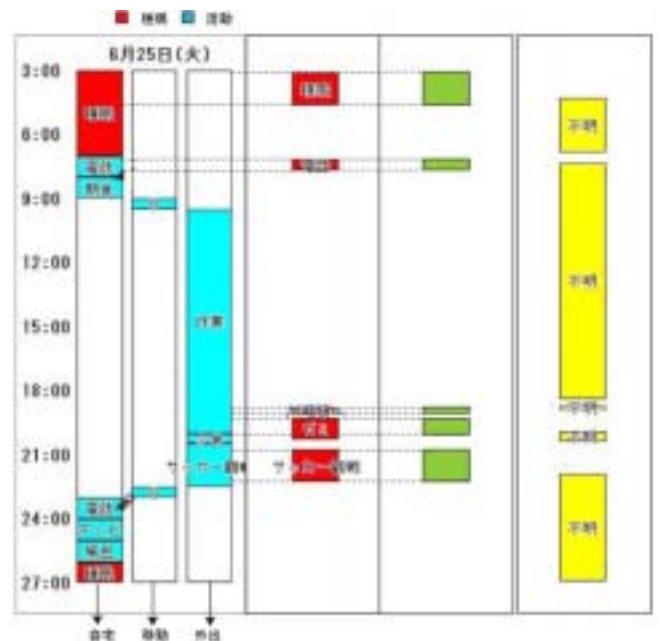


図 4. 活動ダイアリーの概要

(2) 予想的中率と不明率, 予想はずれ率

「予想的中率」とは、交際相手が予想した活動内容と時刻が実際の本人の活動内容と時刻に一致している割合を示す。また、「不明率」とは、一日のうち交際相手の行動を「不明」と記した割合を示す。

「予想はずれ率」とは、交際相手が予想した活動内容と時刻が実際の本人の活動内容と時刻に一致しなかった割合を示す。

表7. 予想的中率と不明率の定義

1) 予想的中率	予想的中率(%)= 交際相手が示した予想と実際の活動内容および時刻が一致した合計時間/24時間(h)
2) 不明率	不明率(%)=交際相手が「不明」と記した合計時間/24時間(h)
3) 予想はずれ率	予想はずれ率(%)= 交際相手が示した予想と実際の活動内容および時刻が一致しなかった合計時間/24時間(h)

5日間通して分析を行うと、予想的中率の割合は低く不明率の割合は高いことが分かる(表8-9)。ほぼ毎日連絡を取り合っているが、実際には大学に行っている以外の活動は予想されていなかったり、交際相手が予想できた活動内容でも時間帯が一致していないことが多い。しかし、基本的な生活リズムやパターン(大学に居る時間帯・就寝時間・仕事など)に関しては予想できていた。

(3)被験者の反応

はじめの調査からおよそ一ヵ月後にあたる7月13日～7月16日に、生活行動調査から得られたデータを整理し、被験者に理解しやすくするため、各日の分析結果(活動ダイアリー、交際相手の予想した活動ダイアリー、交際相手との通信割合、受信・送信割合、通信手段別利用割合など)に、5段階の満足度評価欄、コメント欄を加えたものを被験者全員に送付した。予想的中率に対する満足度、理由を記入してもらったところ表8に示されるような返答が得られた。

また、本調査に対するコメントを表10に示す。

表8. 予想的中率, 不明率, 予想不的中率(カップルA)

カップルA		22 (土)	23 (日)	24 (月)	25 (火)	26 (水)
彼氏の実 際活動に 対して彼 女が示 した	的中 率	20%	2%	32%	26%	0%
	不明 率	73%	93%	68%	73%	100%
	はず れ	7%	5%	0%	1%	0%
彼氏の 満足度		やや満足	やや不満足	どちらでもない	どちらでもない	やや不満足
理由		相手の行動をよく分かっていなかったから。	自分、寝すぎている。	まあ、だいたい当たっている。	俺は、大学行っていることしか、知らないのだから。	いや、あいつ、本当に大学しか行ってないな。
彼女の 実際活 動に 対して彼 氏が示 した	的中 率	8%	26%	30%	21%	21%
	不明 率	80%	66%	66%	76%	46%
	はず れ	12%	8%	4%	3%	33%
彼女の 満足度		やや不満	どちらでもない	どちらでもない	やや不満	やや満足
理由		相手の記入の仕方が適当だから。	なかなか当たっているけど、研究室にはもっと長くいるよ。	昨日と同じだ。	なんで、大学が短いのだろう。たくさん電話してはさすがに。	彼、寝すぎ！帰宅時間が当たっている。

表9. 予想的中率, 不明率, 予想不的中率(カップルB)

カップルB		22 (土)	23 (日)	24 (月)	25 (火)	26 (水)
彼氏の実 際活動に 対して彼 女が示 した	予 想 的 中 率	62%	29%	3%	0%	2%
	不 明 率	37%	69%	92%	100%	92%
	予 想 は ず れ 率	1%	6%	5%	0%	6%
彼女の実 際活 動に 対して彼 氏が示 した	予 想 的 中 率	17%	29%	41%	0%	0%
	不 明 率	78%	64%	53%	100%	100%
	予 想 は ず れ 率	5%	7%	6%	0%	0%

表10. 本調査に対する被験者からのコメント

彼氏のコメント	自分や相手の行動通信、またその理解などがデータとしてビジュアル化されているのは面白く、いろんなことを再認識できた。俺は彼女ばかりと連絡を取っているけど、彼女はほかにもたくさん通信をしていた。
彼女のコメント	あまり、相手の行動を把握しておらず、知らないことだらけだった。頻繁に電話しているのにお互いの行動を把握していない。しかし、お互いあまり気にしない。

5. まとめ

本研究では、遠距離恋愛カップルを対象として通信利用が及ぼす生活行動への影響に着目した基礎的調査・分析を行った。通信利用の分析により、通信相手が交際相手とそれ以外の人との通信手段や時刻には違いが見られ、彼氏は全通信回数における彼女の割合が高いが、彼女は全通信回数における彼の割合が低い。活動予想の分析により、予想的中率よりも不明率の方が高く、満足度の評価は予想的中率の高さよりも的中内容に関係が見られた。今後の展開として、サンプル数を増やして調査することを計画している。具体的には、近距離のカップル・同棲しているカップルの行動調査・分析を加え、通信と生活行動の関係を都市や交通とリンクさせた分析を行い、情報通信と生活行動の関係について考察を深めたい。

参考文献

- 1) 大森宣暁, 室町泰徳, 原田昇, 太田勝敏: 情報通信利用が個人の活動スケジュールに与える影響, 土木計画学研究・論文集 18, No. 4, pp.587-594, 2001.
- 2) 大森宣暁: IT 時代のアクティビティデータの収集・活用, 土木計画学研究・講演集 No.25, pp169-172, 2002
- 3) 橋本良明: 日本人の情報行動 2000, 東京大学社会情報研究所, 2001
- 4) <http://www.enkyori.com/love/index.php> 遠距離恋愛ドットコム
- 5) <http://hip.pos.to/love/> 遠距離恋愛のススム
- 6) 岡本篤樹, 鈴木明宏, 李竜換, 田名部淳, 朝倉康夫: PEAMON(Personal Activity MONitor)の開発と機能実験, 土木計画学研究梗概集 23(1), 2000